

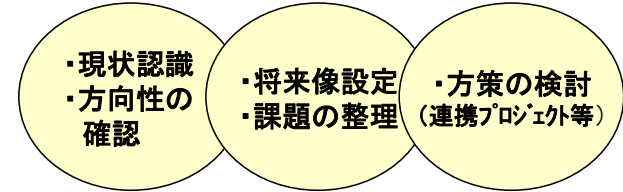
北陸圏広域地方計画
第1回「安全・安心と暮らし専門分科会」検討資料

平成19年2月23日
国土交通省北陸地方整備局
国土交通省北陸信越運輸局

1. 「安全・安心」と「暮らし」の視点からみた北陸圏の地域づくりについて — 論点(検討すべき事項・キーワード)

<各ブロックで検討すべき課題項目> (「計画部会中間とりまとめ」より)

- ①国土における自らのブロックの位置づけと東アジアの中での独自性の発掘
- ②各ブロックの特性を踏まえた域内の各都市や地域の連携方策のあり方
- ③全国共通の課題に対するブロック独自の対応策
- ④ブロック固有の課題への取り組み
- ⑤独自の地域戦略に基づく重点的・選択的な資源投入



<北陸圏の位置づけや独自性>

1. 日本列島の中央に位置する立地 (→ 45, 46P)
 - 東北圏、近畿圏、中国圏との連携で日本海側の「軸」を形成
 - 3大都市圏を後背地に持つ優位性
2. 日本海を挟んで成長する東アジアに対峙 (→ 47, 48P)
 - 東アジアとの交易の歴史や地理的優位性を持つ
3. 豊かな自然、文化的景観、山海の幸などの個性・魅力 (→ 60~61, 65~69P)
4. 人口減少、少子高齢化が他よりも早いスピードで進行 (→ 1~9P)
5. 道路、空港、港湾など社会資本整備 (→ 73P)
6. 人材や食料、エネルギー等の供給地域 (→ 49, 58P)

<「安全・安心」「暮らし」に関わる北陸圏の特性・重視すべき事項 等>

1. 脆弱な地勢や厳しい自然条件と自然災害の体験 (→ 25, 31P)
2. 「雪」対策と「雪」の活用 (→ 26~30P)
3. 東アジアに対面することでの国際リスク (→ 21, 33P)
 - 日本海の水質汚染、国際テロ、紛争等への対応
4. 中山間地、半島地域の人口減少・高齢化への対応 (→ 41~44P)
 - 中山間地、農地等の荒廃による国土管理の問題
 - 集落やコミュニティの崩壊や衰退
 - 地域文化や伝統的ライフスタイルの継承が困難に
5. 全国一優れた居住空間・居住環境の継承と活用 (→ 32P)
6. 健康長寿の暮らしとライフスタイルの継承 (→ 7P)
 - 医療体制の更なる充実化

※()内の数字は「関連動向・データ」のページ数を表します

本日
ご検討
いただきたい
事項

①北陸圏の広域的な地域づくりを検討する上で、重要な論点や事項について

→上記事項以外の項目を含めてご検討をお願いします。

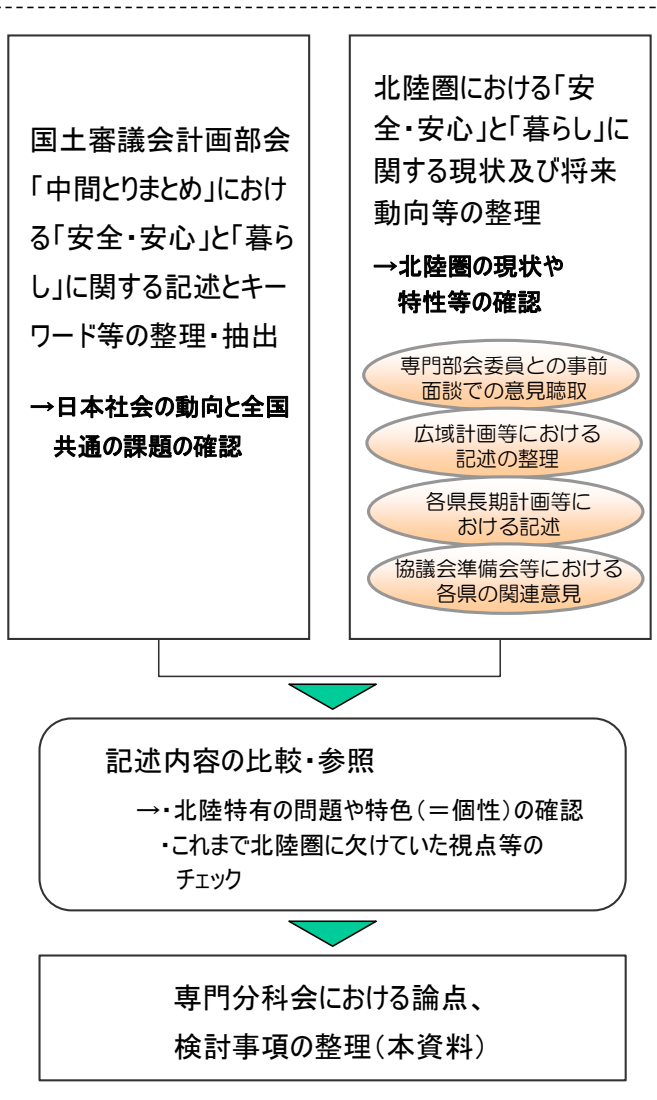
②それぞれのご専門分野を中心とした北陸圏の「安全・安心」と「暮らし」についてのお考え

→現状認識、将来像、将来像を実現するための方向性や方策等をご自由にお話し下さい。

2. 国土審議会計画部会「中間とりまとめ」における「安全・安心」及び「暮らし」にかかわる記述・キーワード

●第1章「時代の潮流と国土政策上の課題」における記述の整理（全国共通の課題として）

<論点及び検討項目策定の方法>



「中間とりまとめ」の項目		主要課題（安全・安心と暮らし関連）		「安全・安心」に関する取り組みの方向・キーワード	「暮らし」に関する取り組みの方向・キーワード
1. 経済社会情勢の大転換	(1) 本格的な人口減少社会の到来、急速な高齢化	人口の減少を前提とした課題	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者単独世帯の増加 人口の減少等を前提とした課題への対応 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティの再生 人と国土の安定的な関係 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティの再生 定住人口以外の多様な人口の視点 地域活性化 人と国土の安定的な関係
	(2) グローバル化の進展と東アジアの経済発展	東アジアとの連携のための課題	<ul style="list-style-type: none"> 東アジア共通の問題の解決と貢献 国際的リスク 	<ul style="list-style-type: none"> 環境問題 資源・エネルギー問題 海洋権益 	<ul style="list-style-type: none"> 人口の高齢化 知力、パワー、情報力等のソフトパワー
	(3) 情報通信技術の発達	「衆知の時代」への対応と活用のための課題	<ul style="list-style-type: none"> 情報通信技術を活用した地域づくり 情報通信技術を国土管理に活用 	<ul style="list-style-type: none"> 防災やセキュリティ確保 医療・介護等の様々な分野で人の活動を補完 国土基盤の機能の高度化 	<ul style="list-style-type: none"> ユビキタスネットワーク環境 テレワーク等勤務形態の多様化 防災やセキュリティ確保
2. 国民の価値観の変化・多様性	(1) 安全・安心、環境や美しさ、文化に対する国民意識の高まり	安全・安心、環境や美しさ、文化への関心の高まり	<ul style="list-style-type: none"> 適切な安全への備え 資源やエネルギー不足への懸念 自然環境の保全、再生 国土や地球環境への負荷 ゆとりや安らぎ、心の豊かさへの意識 	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害の激甚化・事故の多発化・犯罪の続発 地球温暖化の進展・異常気象の増加 脆弱な国土構造 世界有数の地震火山国・生態系の劣化 地球温暖化防止・循環型社会の構築 美しい景観 	<ul style="list-style-type: none"> 事故の多発化 犯罪の続発 地球温暖化防止 循環型社会の構築 美しい景観 文化芸術等
	(2) ライフスタイルの多様化、「公」の役割を果たす主体の成長	多選択社会の実現と地域活性化	<ul style="list-style-type: none"> 多様な働き方、住まい方、学び方が可能な多選択社会 多様な「居住」による地域活性化 国土づくりを担う主体の意識 	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い「公」の役割 国土づくりを担う主体の育成 	<ul style="list-style-type: none"> テレワークなど働き方の多様化 住まい方の多様化 家族形態の多様化 「近居」 「多業」(マルチワーク) 「多芸」 「二地域居住」 多選択社会 幅広い「公」の役割 国土づくりを担う主体の育成
3. 国土をめぐる状況	(1) 一極一軸型国土構造の現状	一極一軸構造のひずみの見直し	<ul style="list-style-type: none"> 地域文化やアイデンティティの回復 過疎問題や活力の低下への対応 地域間格差の是正 	<ul style="list-style-type: none"> 過疎化の進展 災害に対する脆弱性 国土基盤の質的向上 集落の衰退や消滅 	<ul style="list-style-type: none"> 過疎化の進展 地域の個性の喪失 国土基盤の質的向上 地域間の格差 地域活力の低下 社会的諸サービスの維持 地縁型のコミュニティの弱体化 集落の衰退や消滅 新たな地域発展のモデル
	(2) 地域の自立に向けた環境の進展	広域的な観点による課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> 広域的な対応が必要な課題の発生 	<ul style="list-style-type: none"> 広域地震災害対策 	<ul style="list-style-type: none"> 地域のアイデンティティ 過疎・中山間地域の対策 区域を超えた広域的な対応
	(3) 人口減少等を踏まえた人と国土のあり方の再構築の必要性	安全で美しい国土形成への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 国土の魅力の再構築 国土の総合的マネジメント 	<ul style="list-style-type: none"> 美しい田園風景 快適で安全な都市 美しく信頼され性能の良い「日本ブランドの国土」 国土の総合的なマネジメント 	<ul style="list-style-type: none"> 美しい田園風景 快適で安全な都市 深みのある文化 歴史や伝統に根ざした地域の暮らし 快適で信頼のおける交通サービス 美しく信頼され性能の良い「日本ブランドの国土」

3. 専門部会委員との事前面談における「安全・安心」と「暮らし」に関する発言整理 (産業と活力専門部会の委員の発言を含む)

<「北陸圏」に関わる主な発言>

北陸圏の
現状・特性

- 日本の国土戦略上、日本海側や北陸圏の重要性はさらに高まる
 - 日本海側に国土軸を持つことで日本は強靱になる
 - 東アジアとの関係強化には、日本海側の強化が必要
- 北陸3県はそれぞれが異質で、これまで相互の連絡や交流は希薄。広域計画の推進主体もみえにくい
 - 3県はバラバラでまとまりがない。新潟はもう一つ遠い
 - 異質なほど連携しやすく相互に補完できる
- ユビキタスへの取り組みなど、情報通信環境への取り組みは遅れている
- 北陸圏と他の圏域との違いは「雪国」であるということ
 - これまでは災害等「対策」におわれてきたが、最近「活用」を考えられるようになってきた(克雪から利雪・親雪へ)



北陸圏の
方向性・
方策等

- 北陸圏を中心に、日本海側を結ぶネットワークを形成する(日本海国土軸に代わる新しい概念・名称を提唱)
 - 日本海側をネットワークすることで、日本の国土は複数のルートを持つ国土構造となり、防災や交流・交易に大きな力を発揮
- 北陸圏が連携・交流するプロジェクトを立ち上げる
 - 3県(+隣接県)が一つのテーブルにつく場や機会を増やす
 - ユビキタスなど次世代型の地域づくり実験を活用
- 「雪」を活用する地域づくりの検討を推進
 - 「雪」を産業から暮らしまで多面的に活用する視点に立って北陸圏の将来性を考え、日本全国や世界に発信

<「安全・安心」に関わる主な発言>

- 国土の防災や減災の観点からも、北陸圏を中心とした日本海側ルートの形成が重要(太平洋側との相互代替性)
- 最近の動向からみて、国際的なリスクは日本海側の方が高い
 - テロ・紛争、海洋・大気汚染等の環境問題等
- 急峻な地形や急流河川、雪など、北陸圏は厳しい自然条件を有し、自然災害が懸念される圏域
 - 災害にも地理的特性がある。災害を「日本海」で考える
 - 災害は地域によって異なる。雪害は北陸独自のもの
- 水路ネットワークなど国土管理を担い、「安全・安心」を支えてきた地域システムであるコミュニティの崩壊が進行中
- 北陸圏の人たちは防災意識が希薄
- 高齢化が進行し、中山間地が多い北陸圏では、「医療」の問題が大きい(3次医療施設の市街地への集中、医師不足等)



- 太平洋側の代替機能を担えるような、ハードとソフトの「安全・安心」連携ネットワークを北陸が提唱・構築
 - 道路・交通整備、日本海側の広域支援ネットワーク等
- 防災・減災や安全・安心をテーマとした、広域ネットワーク型プロジェクトの検討
- 「安全・安心」を北陸の観光資源として活用。また「安全・安心」の産業化を考える
- 東アジアを中心とした国際文化交流やコミュニケーションの拠点化を図る(文化センターや国際会議場の整備)
- 大学医学部の連携や県域を越える医療ネットワークの整備

<「暮らし」に関わる主な発言>

- 自然や産物、水が豊富で、土地が安く、物価が安い北陸圏は、居住の地としては全国一住みやすい地域
- 中規模程度の都市が連なり、田園と都市が混在するという構造は北陸圏の特色
 - 一方で中核的な都市が不在
- 地域間で助け合う互助やコミュニティの強い結びつきは北陸圏の風土・文化
- 中山間地の人口減少や高齢化をはじめ、各地でコミュニティの衰退が進行中(地域システムの衰退)



- 優れた居住空間、居住環境を発信・活用した交流人口や移住者の拡大
 - 2地域居住、田舎暮らし体験、滞在型リゾートエリア等
- 雪を含めた北陸圏の文化や景観の保全・継承のためのしくみづくり(北陸圏の新しい地域づくりシステム)
- 北陸圏の第2、第3の都市(県庁所在地に次ぐ地方都市)の活性化

4. 広域計画、各県長期計画、その他協議会準備会等における関連意見等の整理

(1) 広域計画等の記述整理

	「北陸地方開発促進計画（第4次）」 （国土庁 H11年）	「北陸21世紀ビジョン」 （北陸経済連合会 H9年）	「北陸の地域づくり戦略」 （北陸の地域づくり戦略会議 H12年）
特性 (資源)	<p><自然・地形特性></p> <ul style="list-style-type: none"> ●起伏に富んだ多様性のある自然 ●肥沃な土地と豊かで清冽な水 ●四季の明瞭さを生む気候・気象 ●脆弱な地勢 <p><地理的特性></p> <ul style="list-style-type: none"> ●日本列島の中央に位置(扉の要) ●北東アジア諸国に向かい合う(アジアのゲートウェイ) ●日本の3大都市圏に隣接 ●日本海に面し水運を活用できる位置にある ●東西日本を結ぶ日本海国土軸の中核圏域 <p><社会特性></p> <ul style="list-style-type: none"> ●北陸地域の潜在力と可能性 ●均衡ある都市の連なりと集積 ●歴史の中で培われた独自の文化資産 ●数多く残る歴史的な遺産 ●忍耐強い北陸人気質、優れた人材の宝庫 ●快適でゆとりある居住 ●働く女性が多い <p><産業特性></p> <ul style="list-style-type: none"> ●日本の食糧供給基地 ●日本のエネルギー供給基地 ●個性的な製造業の展開 ●日本の文化を守り次代に継承する伝統工芸・伝統産業 ●北東アジアのゲートウェイに向けての流通業の活性化 ●資源を活用した観光・交流産業の基盤 	<p><産業></p> <p>中期:北陸3県の総力が結集され、多数の世界企業が活躍している</p> <p>長期:ハイテク産業と高度な感性産業のメッカとなり、北陸ブランドが輝く</p> <p><交流></p> <p>中期:市民レベルの交流や県際交流が活発化している</p> <p>長期:様々な分野における交流、県境・国境を越えた交流、市民レベルでの交流の進展・充実により、人・地域が輝く</p> <p><生活></p> <p>中期:一人ひとりが自立し人々の交流が充実している</p> <p>長期:生活者のコミュニティを主体とした地域づくりにより、自立した自由な都市圏が形成され、生活者が輝く</p> <p><文化></p> <p>中期:伝統文化の継承や新しい文化の形成が活発化している</p> <p>長期:地域文化の国際的ネットワークを形成し、地域文化が輝く</p>	<p><位置づけと地域づくりの戦略></p> <p>21世紀の日本を支える「日本海国土軸」の中核圏域(エリア)として、北陸地域全体の中核性を高め、自立とさらなる発展を実現していく</p> <p><めざすべき将来像></p> <ol style="list-style-type: none"> ①多自然居住地域の創造 ②日本海国際交流の中核圏域・北陸 ③日本海国土軸の中核圏域・北陸
めざすべき 将来像	<p><位置づけ></p> <p>我が国の21世紀の新たな発展を切り拓くフロンティア</p> <p><めざすべき道></p> <ol style="list-style-type: none"> ①コンパクトな地域の中に変化に富んだ豊かな自然と魅力ある都市が重層的に共存し、ゆとりと利便性をあわせ享受することができ、人々の価値観に応じて多彩な生活や就業が可能な北陸となっていくこと ②しかも活力があり、また環日本海交流を先導する世界に開かれた北陸となっていくこと <p>日本海国土軸の形成を先導する地域</p>		
北陸圏の 課題	<ol style="list-style-type: none"> ①都市の連なりと三大都市圏への近接性を生かし、連携・交流する北陸を創造 ②優れた住環境の下で、自然に恵まれ文化の香り高い生活圏を創造 ③小さな世界企業等個性的な北陸産業の形成を促進 ④環日本海交流を先導し、新たな国際交流を展開する北陸を実現 	<ol style="list-style-type: none"> ①北陸の『知恵』を結集した産業の創造 ②グローバルな交流・地域交流の推進 ③暮らしやすい社会生活システムの形成 ④伝統文化の継承と新しい文化の創造 ⑤総合的な地域経営の視点と新しい方法論の確立 ⑥北陸を支える人材の育成 	<ol style="list-style-type: none"> ①地域づくりの前提としての安全・安心の確保 ②地域時代をにらんだ国際的な交流と圏域づくりの推進 ③少子高齢化時代を見据えた活力ある北陸づくりの推進 ④多自然居住のフロンティア圏域としてのライフスタイルの確立と発信 ⑤高度情報化社会への地域一体となった取り組み・対応 ⑥持続的な発展に向けての活力ある産業の形成・拡大 ⑦次代を担う「人づくり」(北陸人育成)の推進

(2) 各県の長期計画等の記述(整理)

特性
・
現状

時代への視点
・
地域課題

将来性
・
方向性

「富山県民新世紀計画」(H13年) 【新計画策定中】

<特性>

- 環日本海諸国との地理的優位性
- 三大都市圏への近接性
- 日本海側屈指の経済水準
- 美しく豊かな自然
- 特色ある文化
- 良好な住環境等

<世界・日本の中での富山県>

- 環日本海交流の中央拠点
- 日本海国土軸の形成

- グローバルな時代
- 高度情報化、ネットワークの時代
- 環境の時代
- 知恵と技術の時代
- 少子・高齢化、人口減少の時代
- 個性化、地方分権の時代

水と緑といのちが輝く 元気とやま

<政策の柱－5つの立県構想>

- ①【人材立県】元気で創造性豊かな人づくり
- ②【生活立県】安全・安心で快適な暮らしづくり
- ③【環境立県】環境と調和した美しい地域づくり
- ④【産業立県】知恵と技術が活きる産業づくり
- ⑤【国際立県】環日本海交流の中央拠点づくり

「石川県新長期構想」(H8年) 【新構想改定中】

<地域的特性>

- 三大都市圏に近接
- 環日本海地域の中心に位置

<資源的特性>

- 良好な自然環境
- 豊かな観光余暇資源
- 伝統と創造の文化集積
- 高等教育研究機関の集積
- 勤勉で質の高い人材
- 小さな世界企業の集積

<地球時代>

- 自然と人との共生
- 国際交流・貢献
- 交流、連携による生活圏等の広域化、拡大
- 本格的な高度情報化社会の到来

<成熟時代>

- 少子化、高齢化、人口減少
- 男女平等参画社会
- ゆとりと個性尊重社会

<地方創造時代>

- 地方分権
- 個性的な文化の創造社会
- 環日本海の中核県
- 創造産業社会

個性・交流・安心のふるさとづくり
－世界に開かれた文化の国づくり構想－

<5つの発展方向>

- ①人、もの、情報が交流する「いしかわ」
- ②個性的な人づくりと文化の創造を目指す「いしかわ」
- ③自然と人との共生する「いしかわ」
- ④安心と楽しさの生活が実感できる「いしかわ」
- ⑤国際競争のある知恵とモノづくりを目指す「いしかわ」

「ふくい2030年の姿」(H17年)

<人と暮らし>

- 健康長寿県
- 堅実で勤勉といわれる県民性
- 積極的に人より前に出たがらない気質
- 多世代が同居する福井の大きな家
- 豊かな伝統と文化が存在

<仕事と社会>

- 繊維、眼鏡、機械などものづくり産業の集積
- 稲作中心の農業
- 兼業農家比率日本一⇔低い農業所得
- 中山間地の過疎化と高齢化の進行
- 転出超過県、人口移動の少ない県
- 15基の原子力発電所の立地
- 自然災害による被害の続発

- 人口減少・長寿社会
－知識・技術を生かす新しい社会の実現－
- 経済構造の変化
－新しい質と尺度の経済社会へ－
- グローバル社会
－大交流の時代に向けて－
- 情報社会
－バーチャルによるリアリティの実現－

生活優先・自立社会

- ①「知活福井」(産業・働き方)
- ②「四通八達福井」(社会基盤)
- ③「福縁福井」(地域社会)
- ④「夢福井人」(人)

(3) 協議会準備会等における発言等

＜協議会準備会における「広域地方計画」への主な発言＞

分類	主な発言
北陸圏全体	<ul style="list-style-type: none"> ● 地理的優位性を活かした東アジアとの交流・連携による新たな飛躍をめざす ● 日本海国土軸・環日本海交流圏の形成が必要 ● 交流人口の拡大のために広域的な交流基盤の整備が必要 ● 東京に過度に依存しない地域づくりが必要 ● 新しい価値観にあったライフスタイルの創造につながる将来戦略づくりが必要 ● 地方と東京は互いに補完し合う関係であるべき ● 北陸のターゲットは太平洋側とアジアである ● 人口流出の背景をしっかりと探る必要がある ● 日本海国土軸の形成として交通基盤が不十分 ● 地方港湾の整備も必要
安全・安心 と暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ● 海岸保全・海洋汚染・黄砂などの対策をしっかりと欲しい ● 流木も大きな課題であり、森林や河川など流域全体としての対策をしっかりと欲しい ● 漂着ゴミ問題が顕在化している ● 中山間地の人口も減少し、人間と獣の生活境界がなくなり、住みたくても住めなくなるおそれがある ● 地球温暖化・グローバル化により害虫の影響が懸念される
産業と活力	<ul style="list-style-type: none"> ● ものづくりの伝統を活かした産業集積が必要 ● 国際観光・広域観光の推進が必要 ● 賑わいあふれるまちづくりが必要 ● 農業・農村の振興等が必要 ● 東アジアとの交流基盤として港湾、空港の整備が必要 ● 活力ある地域産業の振興が必要 ● 産業官間又は産業間の連携による企業立地を促進 ● 「食」資源を産業化につなげて欲しい ● 強みは学術・文化を背景としたものづくりであり、さらに強化する必要がある ● 農地の荒廃、林地の荒廃が懸念されるが、後継者不足、土地所有者不明などにより保全等が難しくなる ● 豊富な自然があり、観光・定住環境が整っているため、あとは新幹線などの高速交通体系が整いさえすれば、地域の活性化や東京にある企業の支店の進出なども充分見込める

＜全国計画に対する各県の計画提案＞

県	提案(意見)
富山県	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新たな国土軸の形成による、多軸型、多極型の国土構造への転換 2. 日本海国土軸の形成 3. 日本海沿岸地域における社会資本の整備・活用の促進 4. 環日本海地域の環境保全の推進 5. 新幹線の整備促進及び並行在来線の機能維持・向上 6. 公共交通の活性化と交通の円滑化 7. 中心市街地の活性化 8. 地方における企業立地の促進と新産業の創出 9. 国際観光の推進 10. 医師及び看護職員の地方における不足の解消 11. 子育て支援の促進 12. 多文化共生社会の実現 13. 雪対策の推進 14. 森づくりの推進
石川県	<ol style="list-style-type: none"> 1. 北陸新幹線の早期全線整備促進 2. 地方空港の国際化～CIQ体制の整備・充実 3. 日本海における港湾の整備・振興 4. 子育て支援の充実 5. 世界遺産登録の推進
福井県	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一極一軸型国土構造から「自立・連携型」国土構造への転換 2. 「自立・連携型」国土の実現に向けた整備新幹線や高規格幹線道路等の高速交通ネットワークの重点整備 3. 電源立地地域と原子力の自立的な連携、安全確保、国際貢献の推進 4. 災害対策等の充実強化(国民保護と原子力防災・テロ対策、雪害対策)
日本海沿岸 (1府11県) ※新潟、富山、石川、 福井、京都	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多軸型国土構造の形成 2. 日本海国土軸の形成 3. 日本海沿岸地域における社会資本の整備・活用

＜国土形成シンポジウムにおける主な発言＞

基調講演	<ul style="list-style-type: none"> ・対アジアとの関係から日本海側の重要性が高まっている ・これからは「文化力」に力点を置き「文化的景観」をキーコンセプトに魅力ある地域づくりを進める
パネル ディスカッション	<ul style="list-style-type: none"> ・北陸は日本海交易の要地として栄えたが、明治以降の東京一極集中で相対的地位を下げた ・繊維や機械、医薬品など幅広い産業は日本海側随一 ・北アルプスや日本海、歴史遺産など観光資源が豊富 ・北陸の優れた居住環境を活用して「二地域居住」や企業誘致を進める ・北陸に豊富な「水」「エネルギー」「土地」の活用を考える ・観光分野では地域連携と、産業観光、歴史資源等の新たな資源の発掘が重要 ・北陸の大学を地域づくりに活用していく(連携、大学の街づくり等)

5. 「北陸地方の活力ある地域をつくる懇談会(H17年度)」における関連発言の整理

<「北陸圏」に関わる主な発言>

北陸圏の
現状・特性

- 北陸新幹線と東海北陸自動車道の開通は大きなメリットだが、一方で平行在来線の問題などで日本海国土軸が分断されかねない
- 北陸地域の連携には交通網の充実が不可欠である
- 住民や企業・行政など地域づくりに向けた新たな連携が必要
 - 住民や企業・行政が同じテーブルについたり、ネットワークで行動するといった「しくみづくり」が重要。
 - 河川行政と農政が連携を強化すれば、北陸の農村風景や農業はもっと良くなる。
- 北陸の「水」は世界に誇れ、貢献できる資源。また雪や景観はこれからの売り物になる
- 食料・エネルギー分野において北陸は貢献をしており、その役割は大きい。
 - 北陸の原発や水力発電はエネルギー供給源としてはもちろん、二酸化炭素の抑制にも貢献している
- 「コシヒカリ」は北陸の文化・文明の象徴であり、シンボルとしてもっと活用してもよいのではないかと



北陸圏の
方向性・
方策等

- 北陸の地域づくりには日本海国土軸の形成が必要である
- 「更新」「活用」の時代をみすえて、今後の北陸の社会資本にはレベルの高いもの、長期間持つものを考える
- 北陸の「水」や「雪」を資源として捉え活用する視点が重要
- 北陸のアイデンティティが感じられるコンセプトやキーワードが、広域連携では重要になる

<「安全・安心」に関わる主な発言>

- 自然環境の厳しさゆえ、安全・安心な地域づくりは北陸に課せられた課題
 - 北陸は治水や砂防、雪などの自然災害と闘い、今の施策を実現してきた。「安全・安心」は地域の特色だ。
- 北陸は港湾の活用も含めて関東のバックアップ、代替機能を担う地域。役割は大きい
- 北陸の人たちは防災や安全・安心への取り組みに対する意識が希薄
- 集落ネットワークで景観や国土を保全してきた北陸の「農」が存亡の危機にある
 - 「農業」は国土管理を含めて北陸の安全・安心を支えてきた。
- 高齢化が進行し、中山間地が多い北陸では、医療の問題が今後大きな課題となる



- 安心感を高める環境整備が重要
 - 「安全」はハード、「安心」は心の問題。ハードとともに安心できるソフト環境整備も視野に入れるべき。
- 太平洋側のバックアップや代替性をいらない「安全・安心」への取り組みが必要
- 住民の意識やコミュニティの力を高めるなど、地域防災力の向上が必要
- 防災の技術、「安全・安心」を産業として活用する
 - 北陸が持っている耐震住宅や砂防技術、地震や雪対策の技術は、世界に貢献できるものであり、産業化を図るべき。
- 北陸から医療改革を始め、発信する
 - 中山間地の高齢者医療の新しいしくみや対応システムを北陸がモデルとなって構築・発信できないかと。

<「暮らし」に関わる主な発言>

- 豊かで、居住環境に優れた北陸
 - 北陸は居住環境に優れ、自然と都市を同時に楽しめる質の高い生活が可能である。
- 自然と「農」が北陸の魅力である
 - 田園と都市が連っているのは北陸の特色であり、また四季の明瞭さや多様性に富む自然は北陸の魅力である。
 - 水田と用水のネットワークが、北陸の風景・景観を生み出し、「農」が地域社会や因習・文化を育んだ
- 北陸における過疎と高齢化に関する課題
 - 北陸はいわば「条件不利地域」であり、過疎と高齢化の進行によるさまざまな問題が顕在化してきている。
 - 高齢者世帯の個人の暮らしや資産を如何にメンテナンスしていくかが社会的に課題。



- 北陸の豊かな暮らし・生活を維持・拡大していく
- 北陸の「住みやすさ」を提示・発信できるような地域づくりを進める
 - これからの地域づくりやまちづくりは、経済や産業を主体に置くよりも、「住」に大きくシフトしていくことは間違いない。
 - 「住みやすさ」に美しさや文化が必要。また働く場や地域で活動できる場も重要になる。
- 「2地域居住」を推進し、「暮らし」で地域の活力を高める
 - UターンやIターンの促進、公募などによって、定住者や長期滞在者の獲得をめざす。そのために「住みやすさ」「暮らしやすさ」をアピールしていく。
 - 住宅施設や福祉施策、ITなどを戦略的に充実させ、「2地域居住」や移住者を拡大する。